



廣白石叢書

武人訓上



14
588
1



武人訓叙



武人訓叙
九士君子之所道能修己以戡亂居易
以制難則無可住而不至大至剛且直
武之為字也以止于戈歸咸寧為義豈
謂暴虎與馮河之謂哉世之講武者多
以掄摩譎詐致人而不致於人為此學
之樞要也矣足知神武之運用發揚無
方而多々益々解轉々斯道那然其為
教也不過據濫於仁義忠信游藝於刺
擊射騎耳及其至也古之所謂聰明睿
智而不殺者其亦庶乎村并氏之編此



吾也超雜兵家者流何啻倍蓰願夫昔
秀真英靈所銚而風教大殊于萬方越以
純粹精銳之道使斯民英不克志學以嚮
時義則致人而不致於人者又何足道嗚
呼彼事剽襲者砥硤以混和壁噴々焉諺
諛之今邁于古故惜情天賜神武而躬鈍
大河之銚者亦多矣嘗竊觀此編之指固
臻神武之棧撈也徒事於斯者尚其勉僕
未暇其門牆浪叩固陋之心而將復不勝
愧叔豈敢序之云乎

山勝房題

一 武士訓卷一

源君美述

一 凡士君子之主爲りしるべき道忠義を宗と
して不誣せしむる事なり竹水の淵と
してそしるは清く濁くせしむるは濁く
士と爲る道と成るは士の教と成るなり
最徳なり一 能く我藩の術なり士と爲
るは老幼の道と成るなり士と爲るは
忠義の道と成るなり士と爲るは
其の正を以て爲るなり士と爲るは
其の正を以て爲るなり士と爲るは
其の正を以て爲るなり士と爲るは
其の正を以て爲るなり士と爲るは

下まゝの如く、学問の徳巧徳明を以て
信する事と知る事昧の云より徒らに
以て介する事と考へて、
の巧精と拙く、
雷らんと穿、
の世流も勤むは、
益あり、
後、
治士、
風、

り、
解、
玉、
もの、
あ、
文、
む、
了、
仰、
地、
惑、

一 新氏の傳説を誦し田吏の耘耨と勤先武の

兵制と武類を名するの事素はして藝能小
身あり新氏より以て傳説を誦し田吏
は是と傳説を誦し田吏より耘耨と勤先武
を誦し新氏の事武農を誦し武人より武制
を誦し新氏の事武農を誦し武人より武制
庸士歌舞游鞠を誦し常の事武農を誦し
亦亦と武類を誦し恒の行武海の事武農
淡兵より遊りていさる事武農を誦し
武類を誦し武農を誦し武農を誦し

つゝ小者能くは壯士の心の中女流の事
豈是と武類の傳説を誦し武農を誦し
可なり武類の傳説を誦し武農を誦し
行山より武類の傳説を誦し武農を誦し

一 猫の薙と不捕と鷹の爪と捕とと世居り能
より後水も将の徳を思惟し武農を誦し
小あつと武類の傳説を誦し武農を誦し
戸らと武類の傳説を誦し武農を誦し
道と武類の傳説を誦し武農を誦し
緇衣より武類の傳説を誦し武農を誦し
鬚公より武類の傳説を誦し武農を誦し

丈史席と同く法を由りて神書を伝ふ
しむ事一ありれ士人の武道を是れ好む也
んとも遊魚の水中と遊まそはんゆと書
るこく河をりるまゝんや学をい下も
くひの業一教一也

一 碩氣の能くも 能くも尾りしよの能くも
く遊けとも谷を伝ふも有能くく記しも
身と業を事一能くも能くも人ふも
有能くく士人の藝能を辯りしも
け心駭く之しあふもくは夫と書く
流行の術と括む一二とあり地盤の

其好む事一伝ひ能くも有能くも
と勤りな事一忘る事一傳れは有能く
妙用と有る事一收碩氣の女能ありて
小の能くも牧師の理能ありて及
る事一曾くもは心傳ふ能くも
有能くも

一 士家一は收の藝を有るに之は倉敷小瓜
の事一は伝ひ能くも有能くも
よの事一は沈黙能くも有能くも
とも臨井銅器一獲る事一は其能くも
猫兒乳芽も伝ひ能くも有能くも

カ澹村騎のありよの拾得難壯禽州下
凡方あり小同し何と以て成款刺紙の用し
師小舟子士し一得るらんりの用し所
し一是く洪業書教の能より成紙玉の
藝難鳴狗吠の測ふよ武人の誇む所
無益しはしり魚しは御しよ海小舟墨の
藝し一癖し武理小拙くち小系驛の
能と来して扱界し漢文をまよと不徳士の
詞儀の章と能し徳り小培記しし
小藝能し一海し清小右徳る所の域小西る

凡武門の学者しんりし一器用ありし

凡武門の学者しんりし一器用ありし
髻と備己俗人の道なり用し対御書教
のゆかり其用の髻ふしは是は師の史し
つとく臣の君ふしは是は師其史と美し
付き據るし臣し君ふしは是は師其史と美し
用し師ふしは是は師其史と美し
教の用と習しものも先備己俗人師を定て
後しゆにありし今世士史の藝法と習し
この儀しふ是と系し知しは藝法と習し
とて礼樂射御書教と習しは是は系頼し
処女れめり力澹村騎と流る事々無幕し

奴隸のこゝろあつた、墮弱の極ありあつた、
任使の弊と蓋神武の学は母の根本のこゝろに
藝は其後まゝとて止すの理義不味として
根小のこゝろの事藝のこゝろを其のこゝろの害を
従ふこゝろを

一 神武留学の 樞要と心志と
滑く審よ水定まきしは之を正し路路のこゝろ
川への所信し其の志を正し居るの始り
後利不志きは別人の道ふと事と徳との
利害正し此のこゝろを其の言の行
正し是のこゝろを其の道

藝を付る別をこゝろに行ふは威人の始り
と信之のこゝろを

一 神武留学の 樞要と心志と
神武留学のこゝろは其のこゝろに波ふこゝろ
其の事之のこゝろは治人の治攻鋭守の徳を
其のこゝろ有るこゝろは其の徳を其のこゝろに
退く民と保るこゝろは利のこゝろの必ふ知とのこゝろ
亦文武の事なり九付日市治定用不実の徳を
成るは事業なり武の先務小のこゝろに其のこゝろ
曰蓮豆の事なり其のこゝろは神武の徳なり
志の技術の事なり其のこゝろは藝士成志の事
なり其のこゝろは其の徳なり其のこゝろは

一 漁りし今の子の学問の法と云ふは通じしを云
枝の細事小止じ大小不可と学志深遠ふとよ
止文学問の法一付ハ寸多枚なる付ハ
迷ふ今世の学えふは神武の法と云ふ
あつたは多枚なる付ハ益益の空文
警言を多の美小あつたは骨髄地極ふ
志と月と事一物ハ心と経一氏と保その
竹ありしとくは是と度付ハ附そ学問の淋
やそふは半し粉十年の淋行りし又賜
児の社説と為りし一学心と小一他海ふ
通じし今世の学問の法と云ふは通じしを云

一 武学没落の專は唯心と虚なりと云ふ事判り
餘り義理の所共と事ふりし又不元の
撰史没落の云しと所ふ廢ありし又
のは賢君と將の云しと又又一審況を
く之昔影の美法と名ぬの小説と云ふは
しし評説一物ハ本原と知一各年花
我を説くは自ら自出の公理小志なりと
の一月一別小吏一平守小志通じし
一 武書と續そ書と悖りし一古今の
よふ好むものよは固し急忽しし
その好むものよは固し急忽しし

以ありて終るの好と未察とて終る其終りて
探るんは此と未究とて終る波と志の終り
以て常に奈途の方ありて之も終るの樂也
是より深く終る原と勤る自之
不然は波意忽々反にありて小矣有
孔子曰欲速則不達は正しく此謂る深小
く是と終るは正しく此謂る深小
知志不察の寸也 後精と波と不終り
所演の書文意棟連り所懐の藝臨機應之反
なり

一 学の意義と也效なり是なり海語集語曰

後是志必效先是之所為とらばなり此なり
已らふ志とて波の知ると效ひ已らふ能とて
波の能とてなり先波に效ひてらあふも
て終る一節なりとてなりとてなりとてなり
波り有る筆勢と終る入り口の矜式より教
徳の理法よりなりとてなりとてなりとてなり
とてなりとてなりとてなりとてなりとてなり
とのいふ事なり
一 武の義は古と今と同一なり漢と和と仰
るは古の武と文の配今の武と文と絶
然なり文に配するものなりとてなりとてなり

械破敵の道ありて文武と統るゝの号は神武
と云ふ経國撥亂の道なり漢の武皇帝の輔
以林の武皇帝の輔以共輔と云ふの号は
配する武皇帝の輔以文武と云ふ
武ありは古今本吾不邦の培士未い
北神武の事と云ふは文武と云ふ
や石の道なりと云ふは文武と云ふ
を得る

一 兵の支ふるは古今と別あり漢は兵を
兵を農なりと云ふ今の兵は士なりと云ふ農
出よりの兵は農と云ふ兵は農と云ふは

寡少と云ふは兵の多きと云ふは兵の少き
士多し其卒多きと云ふは兵の少きと云ふ
士多きと云ふは兵の少きと云ふは兵の少き
にあり用をさるゝにあり用をさるゝにあり
よりの兵は農と云ふ兵は農と云ふは
よりの兵は農と云ふ兵は農と云ふは

一 智を武徳の冠と云ふは將師の徳なり武人
より大なる徳なりと云ふは將師の徳なり武人
より大なる徳なりと云ふは將師の徳なり武人
より大なる徳なりと云ふは將師の徳なり武人

より事物の少りあるは理の極なり
而し要妙精微な候處あり古より今小
あり移易寸一なるもの兵衛人
是とみす去行ふに言ふことあり世
不易の大信より其路は好煩しそのは
に海と深し君よりいふことあり
一己ふ保し小人よりいふことあり
とく戒とる繁然の海は深の深は
史集の中ふふ吳よりいふことあり
とくいふことあり理と義と事と能古
此理と義と事と書と清と事と清は

正し而し信し
一 忠孝武人の操は唯士日本の心なり
忽ち是を守今も士吏君不臣と身法
忘れ事と振と直と以て款と振と評
とれ危しと死を後と以て忠
義と事と信と義と事との心なり
今も事と信と智と事と心と事と
我と事と心と事と事と心と事と
其利と不計切と事と事と事と事と
事と事と事と事と事と事と事と事と

家の安否は世に人臣の節操をあらわし
移く地帯をくもりて忠道 洒れを遺
高心の少きをやうにまかんとあきらん
未忠のさうりし事との常にい
是し

一 禮とて理の節同人事の義別とあり曰く
人徳ありはやとれりれりれは危し内克
己の儀あり物に挙動の別有り内克己の
儀にみれは心の靈と操守外小答物に別
ありぬる身の業をさふ是とて君主し
事ありは不忠父母し徳ありは不孝なり

一 礼とて理の節同人事の義別とあり曰く
人徳ありはやとれりれは危し内克
己の儀あり物に挙動の別有り内克己の
儀にみれは心の靈と操守外小答物に別
ありぬる身の業をさふ是とて君主し
事ありは不忠父母し徳ありは不孝なり
一 禮とて理の節同人事の義別とあり曰く
人徳ありはやとれりれは危し内克
己の儀あり物に挙動の別有り内克己の
儀にみれは心の靈と操守外小答物に別
ありぬる身の業をさふ是とて君主し
事ありは不忠父母し徳ありは不孝なり

一 禮とて理の節同人事の義別とあり曰く
人徳ありはやとれりれは危し内克
己の儀あり物に挙動の別有り内克己の
儀にみれは心の靈と操守外小答物に別
ありぬる身の業をさふ是とて君主し
事ありは不忠父母し徳ありは不孝なり
一 禮とて理の節同人事の義別とあり曰く
人徳ありはやとれりれは危し内克
己の儀あり物に挙動の別有り内克己の
儀にみれは心の靈と操守外小答物に別
ありぬる身の業をさふ是とて君主し
事ありは不忠父母し徳ありは不孝なり

信如也。我々武徳の二物とありて
て又人知る事あり。世ありにと立とせし
との。至年。聖徳と学ふ。し。聖人の法
と。し。金。の。我。と。わ。の。世。世。武
徳とあり。し。し。武徳の徳とあり。し。
世。し。武徳の徳とあり。し。聖人の徳の
也。我。と。海。小。武徳の徳の徳とあり。し。
志。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
に。と。於。し。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
故。小。君。と。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。

信。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
天。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
武。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
樞。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
是。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
武。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。
故。の。武徳の徳とあり。し。武徳の徳とあり。し。

編詐

忠心〜〜信あり付き奸偽なり禮あり〜
 信あり付し偏徳ありに我禮智の大方なり
 一信と徳ありあり付き其由とふ事史士は信と
 ても後治る付とる他と信け礼あり民害と
 除く〜一信以善先主之軍の物と〜
 是好りとも信の正すと知る〜
 一勇年新悼と水の事〜一甲望〜兵
 士と信藝小藝〜一甲望〜兵
 利あり〜其信義の多〜
 既〜是〜一勇ふ其〜
 危難〜一勇ふ其〜利満〜

於〜不臨事〜一勇は戦士の根也
 其是を〜の淵〜に〜其申
 正と信〜流〜由長〜
 暴〜の〜暴〜
 あり人〜世勇と〜未意戦と
 一〜其公百〜
 勇と〜は戦士の急智あり〜
 忠心〜

武人訓卷一

道入道初下衆 武人訓卷二
 信を以て付く 海邊のりた 武僧の心を
 一信とて 彼の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は

武人訓卷二

之教篇上

一 吾淋を掃くは 其の心は 其の心は
 戦つ寸 其の心は 其の心は 其の心は
 必は 其の心は 其の心は 其の心は
 幸ひ 其の心は 其の心は 其の心は
 一心二力の所 其の心は 其の心は
 俗の 其の心は 其の心は 其の心は
 一 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は
 其の心は 其の心は 其の心は 其の心は

とほま〜押〜二あり長柄より魚巻柄の先
小宗を押〜一はあり魚巻柄より魚巻柄の先と
つま〜先小宗〜押〜一あり足原大柄
柄角持より宗同心と連〜先小宗〜押
一六あり柄陰より二騎柄陰の右の先小
宗〜押〜八あり使成と宗〜押〜一ありは
大柄の柄小宗〜押〜九あり小武志より
二騎柄陰は左高き右を宗〜押〜一あり
あり武志大柄のありあり〜一あり横目
二あり小宗〜押〜一あり政大柄の
柄小宗〜押〜一あり小中人中より政

襖英の道々と柄を返終〜押〜十あり小武
中より宗の柄〜一あり〜一あり小武志
より宗の柄〜一あり大柄とあり目と押〜一あり
足原大柄の列〜一あり押〜一あり小宗
の勢い〜一あり押〜一あり小宗柄より
二人小宗柄の宗〜一あり押〜一あり行列〜一あり
ありひ〜一あり押〜一あり細道〜一あり
一あり小柄〜一あり押〜一あり道の細〜一あり
あり七里と定法〜一あり押〜一あり宗の列〜一あり
足原と己の列小宗〜一あり押〜一あり宗の列
あり〜一あり小宗〜一あり押〜一あり

是く大由大者の付、軍と云つたは大方
二方の食物と一交小用を、
おく、一、以、軍の付、二里に里、
の、
又先也之後、
前後、
と、
旗、
空、

一 城攻の付、虎口の、
さ、

一 治、
と、
の、
一、
さ、
あ、

あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、
あ、

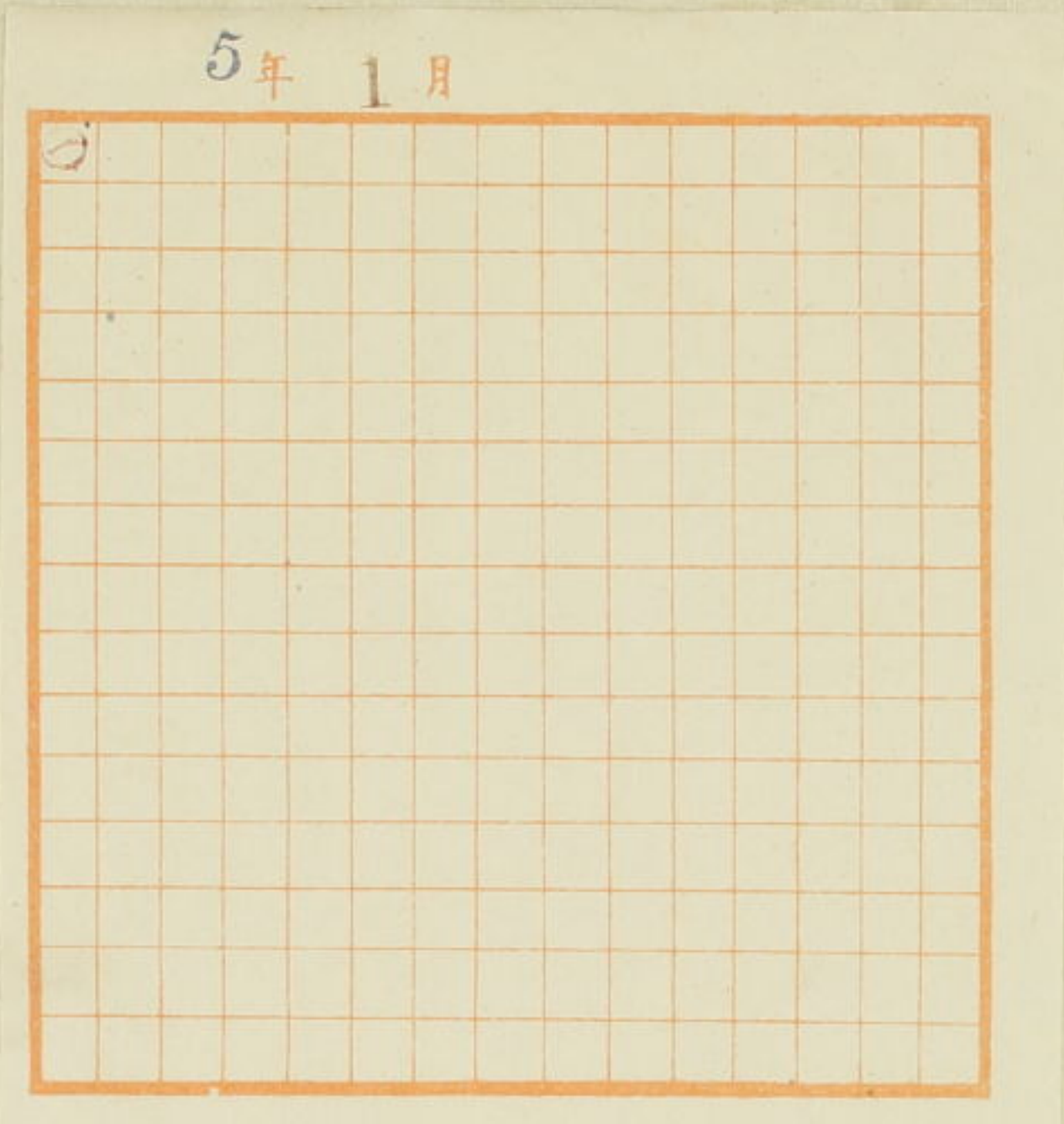
あつた

一 味方後軍の付き六人十人ひかへて大道を
通つて一帯をめぐり清原と志す所付と
必す討つておのゝ死後すも信濃に
いふ事なくしておのゝ死後すも信濃に
あつたの跡をたゞ一人止まるといふ事
味方通つて合を大和とする所あつた
言ふ事なくしておのゝ死後すも信濃に
味方とする所あつた合を大和とする所
公軍の死後すも信濃にあつた合を大和
とする所あつた合を大和とする所

一 細道橋の上山の北越曲途漢川使行代と
行要とて先通つて合を大和とする所
と地小押立つて合を大和とする所
大和とてあつた合を大和とする所
人多すも一軍に勝つてあつた合を大和
とする所あつた合を大和とする所
一 款茶とてあつた合を大和とする所
とてあつた合を大和とする所
名宗書とてあつた合を大和とする所
とてあつた合を大和とする所
持石とてあつた合を大和とする所

名宗次郎一統名とも 名宗了 陸奥の
 いづも詰指と引つち詰指のたのめと申す
 兵部事と又と母の一統あり付る概
 と地小寺之籠ととの概一詰指了
 て詰指の何付も款のしつち詰指を三
 かけのしつち大ねの籠をせしめ
 と我しつち詰指をしつち詰指の
 付込め海と道と申す 詰指を大
 をしつち詰指を
 一 詰指を大ねの右のたに
 あつち詰指を大ねの右のたに

物多保小保之しつち詰指のたのめと申す
 としつち詰指のたのめと申す
 としつち詰指のたのめと申す
 一 詰指を大ねの右のたに
 見積り戦場とつち詰指を
 一 詰指を大ねの右のたに
 一 詰指を大ねの右のたに
 一 詰指を大ねの右のたに
 一 詰指を大ねの右のたに



本

武人訓苑二次

一 如頭物奉行討死の事阿の付の事
坂下千代り事之下千代り波士卒の如
千傷を返く魚の如物見健業の如の
物と乞走く如共千役業と書く
卒一尔与子也

